

**Sun Fire X4800 M2 サーバー Oracle Solaris**  
オペレーティングシステム設置マニュアル



Part No: E24548  
2011 年 8 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

このマニュアルの使用方法 .....	5
製品のダウンロード .....	5
ドキュメントおよびフィードバック .....	6
このドキュメントについて .....	6
寄稿者 .....	7
変更履歴 .....	7
Oracle Solaris OS のインストールの概要 .....	9
OS のインストール準備 .....	11
起動ハードディスクを消去する方法 .....	12
仮想ディスクの作成 .....	15
仮想ディスクの作成方法 .....	15
ブートドライブを設定する方法 .....	29
Solaris OS のインストール .....	31
Solaris OS をインストールする場合の作業マップ .....	31
インストール方法の選択 .....	32
Solaris 11 Express ドキュメントの入手方法 .....	35
Solaris 10 ドキュメントの入手方法 .....	36
Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定 .....	36



# このマニュアルの使用方法

---

この節では、製品情報、ドキュメントとフィードバックのリンク、およびドキュメントの変更履歴を示します。

- 5 ページの「製品のダウンロード」
- 6 ページの「ドキュメントおよびフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

## 製品のダウンロード

すべての Oracle x86 サーバーおよびサーバーモジュール (ブレード) 用のダウンロードは、My Oracle Support (MOS) にあります。MOS には 2 種類のダウンロードがあります。

- ラック搭載サーバー、サーバーモジュール、モジュラーシステム (ブレードシャーシ)、または NEM に固有のソフトウェアリリースバンドル。これらのソフトウェアリリースバンドルには、Oracle ILOM、Oracle Hardware Installation Assistant、およびそのほかのプラットフォームのソフトウェアとファームウェアが含まれます。
- 複数のタイプのハードウェアで共通するスタンドアロンソフトウェア。これには、Hardware Management Pack と Hardware Management Connectors が含まれます。

### ▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページの上部にある「Patches and Updates (パッチと更新)」タブをクリックします。
- 4 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (製品またはファミリー)」(「Advanced Search (高度な検索)」) をクリックします。

- 5 「Product? Is (製品は?)」フィールドに、一致するもののリストが表示されるまで製品名の全体または一部を入力し(例: **Sun Fire X4800 M2**)、目的の製品を選択します。
- 6 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
- 7 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印(>)をクリックし選択肢を表示してから、該当するリリースを選択し、「Close (閉じる)」をクリックします。
- 8 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。製品のダウンロードのリスト (パッチとしてリストされる)が表示されます。
- 9 目的のパッチ名を選択します。たとえば、**X4800SW1.1 - Oracle ILOM** および **BIOS** の場合は **10333322** です。
- 10 表示された右側の区画で、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

## ドキュメントおよびフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Fire X4800 M2	<a href="http://download.oracle.com/docs/cd/E20815_01/index.html">http://download.oracle.com/docs/cd/E20815_01/index.html</a>
Oracle ILOM 3.0	<a href="http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html#ilom">http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html#ilom</a>

このドキュメントについてのフィードバックは次の URL からお寄せください。<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>.

## このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、節などの番号はありません。

特定のトピック (ハードウェア設置やご使用にあたってなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を取得するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

## 寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan。

寄稿者: Kevin Cheng、Tony Fredriksson、Richard Masoner。

## 変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2011年7月。初版。





# Oracle Solaris OS のインストールの概要

---

本書には、サーバーに Oracle Solaris 10 09/10 OS または Oracle Solaris 11 Express OS をインストールする方法、および Oracle Solaris のインストールマニュアルが提示されています。

この章は、次の節で構成されています。

説明	リンク
Oracle Solaris OS のインストール前に行う準備作業。	<a href="#">11 ページの「OS のインストール準備」</a>
ブートディスク上の既存のボリュームを消去します。	<a href="#">12 ページの「起動ハードディスクを消去する方法」</a>
ブートディスク上に必要な仮想ドライブボリュームを作成します。	<a href="#">15 ページの「仮想ディスクの作成」</a>
Solaris OS をインストールします。	<a href="#">31 ページの「Solaris OS のインストール」</a>
インストール方法を決定する。	<a href="#">32 ページの「インストール方法の選択」</a>
Solaris OS のインストールドキュメントを入手します。	<a href="#">36 ページの「Solaris 10 ドキュメントの入手方法」</a> または <a href="#">35 ページの「Solaris 11 Express ドキュメントの入手方法」</a>
論理ネットワークポートと物理ネットワークポートを特定する。	<a href="#">36 ページの「Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインターフェース名の特定」</a>

---



# OSのインストール準備

---

Solaris OS のインストールを始める前に完了しておく必要のある作業があります。OS がサーバーのドライブにすでにインストールされているのか、または新しいドライブでパーティションがまだないのかに応じて、次の作業を選択します。

- サーバーのブートハードディスクに Solaris 以外のオペレーティングシステムがインストールされている場合は、Solaris をインストールするために消去しなければならないことがあります。12 ページの「[起動ハードディスクを消去する方法](#)」を参照してください。
- サーバーに Solaris 10 Update 9 とパッチがプレインストールされていない場合は、サーバーの HBA ソフトウェアを使用して論理ドライブを作成する必要があります。これを行わないと、Solaris インストールプログラムはサーバーのディスクドライブを検出できません。15 ページの「[仮想ディスクの作成](#)」を参照してください。
- RAID アレイの一部であるディスクに OS をインストールする場合は、OS をインストールする前に RAID アレイを設定する必要があります。詳細は、サーバーのディスク管理の各種ドキュメントを参照してください。15 ページの「[仮想ディスクの作成](#)」を参照してください。
- Solaris 10 9/10 をインストールする前に、x2APIC を無効にする必要があります。x2APIC アーキテクチャーは、BIOS ユーティリティで有効または無効にできます。BIOS ユーティリティにアクセスし、次の図に示すように「Advanced (詳細)」メニュー > 「CPU Configuration (CPU の構成)」 > 「x2APIC」 > 「disable (無効)」を選択します。その後、終了して変更を保存します。インストールの

後、パッチ 144489-11 以降を追加し、再起動してから、x2APIC を有効にします。



## ▼ 起動ハードディスクを消去する方法

始める前に サーバーのブートディスクに不要なオペレーティングシステムがインストールされている場合は、この節で説明する方法に従って消去することができます。

この手順を開始する前に、Tools and Drivers CD を入手してください。



注意 - この手順によって、すべてのデータがハードドライブから消去されます。この手順を開始する前にデータをバックアップします。

- 1 ハードドライブ上のすべてのデータをバックアップします。
- 2 遠隔コンソール (JavaRConsole) から Tools and Drivers CD にアクセスします。  
詳細は、『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』の「Oracle ILOM およびシステムコンソールとの通信」を参照してください。
- 3 ツールとドライバの CD からシステムをブートします。  
ツールとドライバのメインメニューが表示されます。

- 4 メインメニューから「**Erase Primary Boot Hard Disk**(プライマリ起動ハードディスクの消去)」を選択します。  
このオプションを選択すると、プライマリハードドライブ上に現在あるすべてのパーティション(診断パーティションを除く)が消去されます。診断パーティションがある場合は、これは消去されません。

次の手順 [15 ページの「仮想ディスクの作成」](#)



# 仮想ディスクの作成

---

オペレーティングシステムをインストールする前に、Sun Fire X4800 M2 サーバー上に仮想ディスクを作成して、イメージのダウンロードに必要な領域を確保する必要があります。このダウンロードによってディスクの内容が消去されます。

仮想ディスクは、オペレーティングシステムのダウンロード用の LSI ファームウェアから作成できます。LSI ファームウェアには、サーバーの起動時のみアクセスできます。OS が起動される前に LSI バナーが表示されているときに、Ctrl キーを押しながら H キーを押すと、LSI インタフェースが表示されます。

---

注- 仮想ディスクは MegaRAID ソフトウェアから作成することもできますが、オペレーティングシステムのインストールには使用しないでください。MegaRAID ソフトウェアは、Tools and Drivers DVD の追加ドライバからインストールされます。

---

15 ページの「[仮想ディスクの作成方法](#)」を参照してください。

## ▼ 仮想ディスクの作成方法

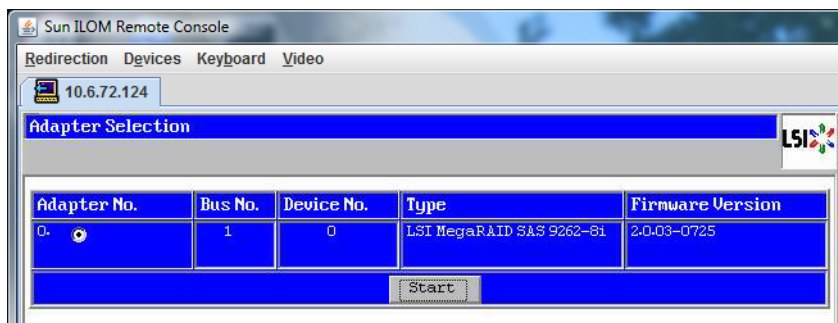
- 1 サーバーモジュールにログインします。サービスプロセッサ (SP) モジュールの IP アドレスを使用します。  
Web インタフェースウィンドウが開きます。
- 2 「Remote Control」タブをクリックして、Oracle ILOM Remote Control を起動します。
- 3 「KVMS」タブをクリックします。
- 4 「Mouse Mode」で「Relative」を選択して、「Save」をクリックします。

---

注- 「Relative」オプションを選択すると、リモートコンソールでマウスをウィンドウからウィンドウに動かすことができますようになります。この手順の最後で、このマウス設定を「Absolute」に変更するよう求められます。

---

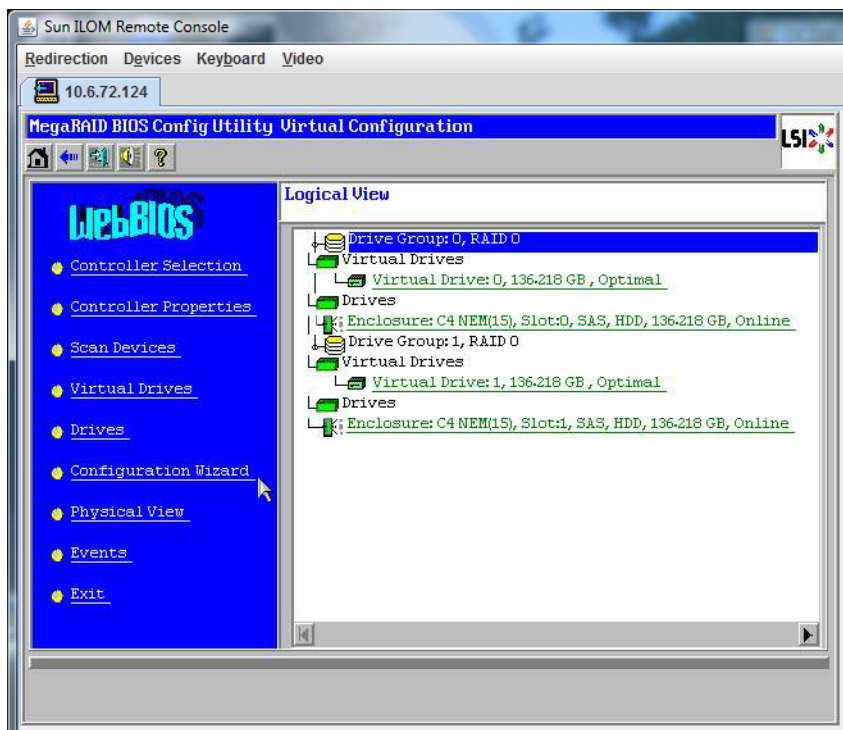
- 5 「Redirection (リダイレクション)」タブをクリックします。「Redirection」画面で、「Launch Remote Console」をクリックします。  
Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウが表示されます。
- 6 「Devices」メニューで「Mouse」を選択してマウスを有効にします。
- 7 サーバーを再起動して、LSIバナーが表示されるまで待ちます。デバイスのバナーページが表示されたら、Ctrlキーを押しながらHキーを押します。  
「Adapter Selection」ウィンドウが開きます。



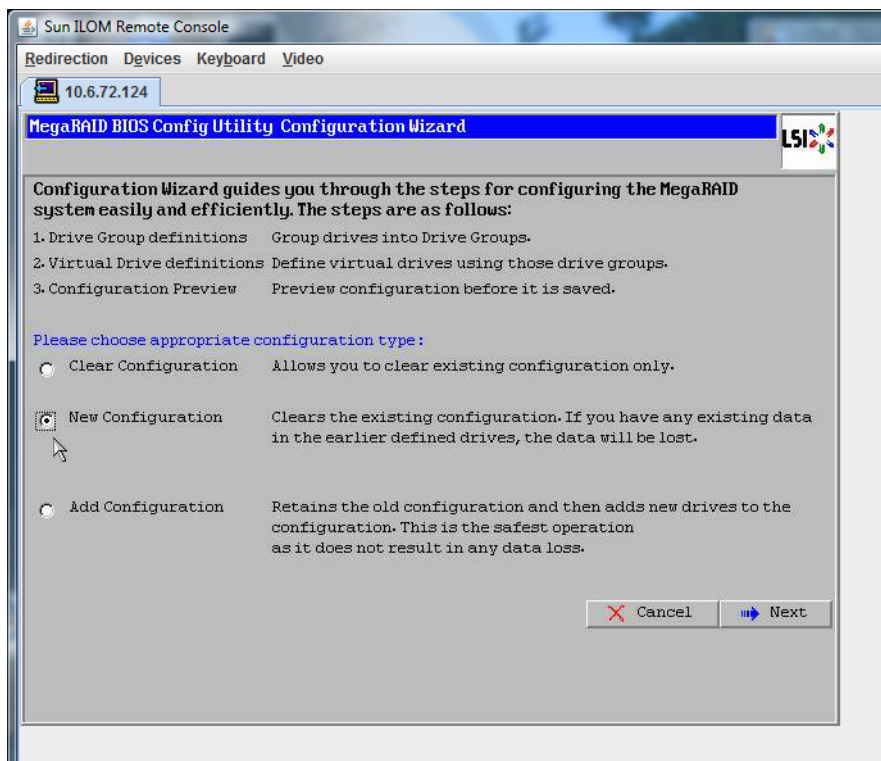
- 8 「Start」をクリックします。  
「MegaRaid BIOS Config Utility Virtual Configuration」画面が表示されます。



- 9 「Configuration Wizard」を選択します。  
「MegaRAID BIOS Config Utility Configuration Wizard」が表示されます。



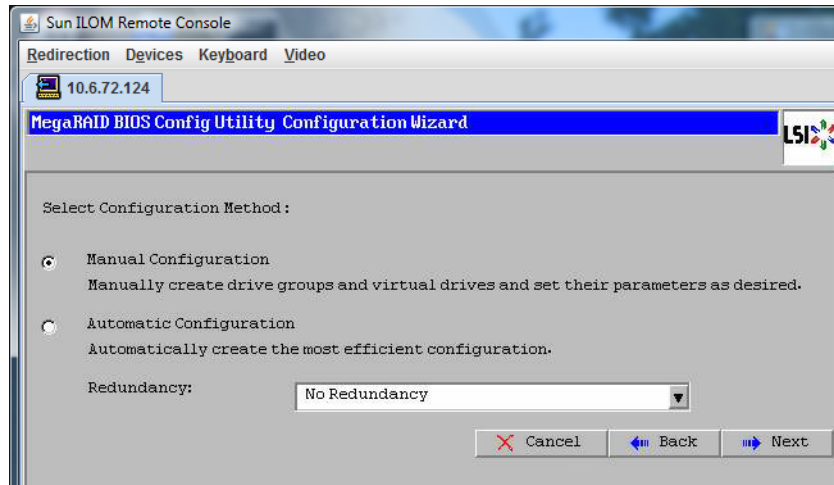
- 10 「New Configuration」をクリックし、「Next」をクリックします。



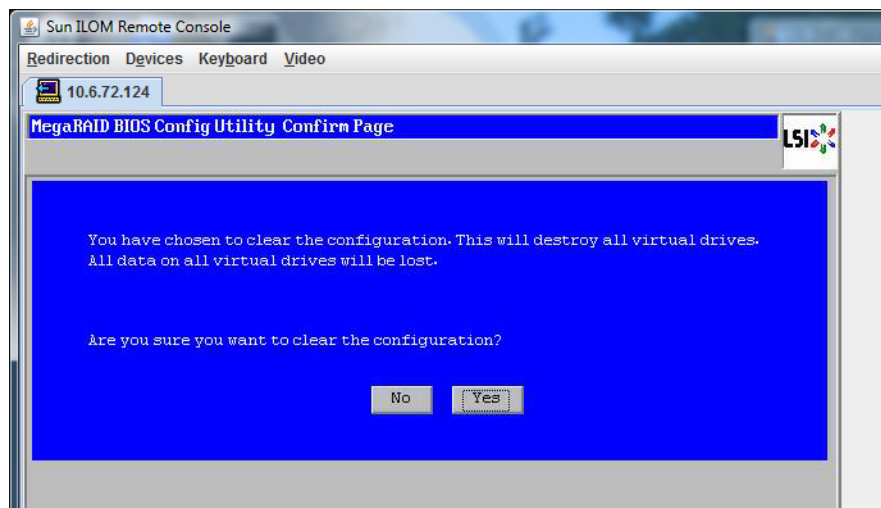
- 11 「Manual Configuration」をクリックします。

「Automatic Configuration」を選択すると、システム上のすべてのハードドライブを含む単一の仮想ドライブが作成されます。複数のドライブがストライプセット (RAID0) として設定され、結合された記憶域の単一の仮想ドライブとして表示されます。

複数の障害点が存在し、1つのドライブの障害でシステムが起動しない可能性があるため、これは好ましくない場合があります。1つを除き、すべてのドライブを取り外す必要があります。または、「Manual Configuration」を選択して、1つのハードドライブだけを使用して仮想ドライブを作成することもできます。

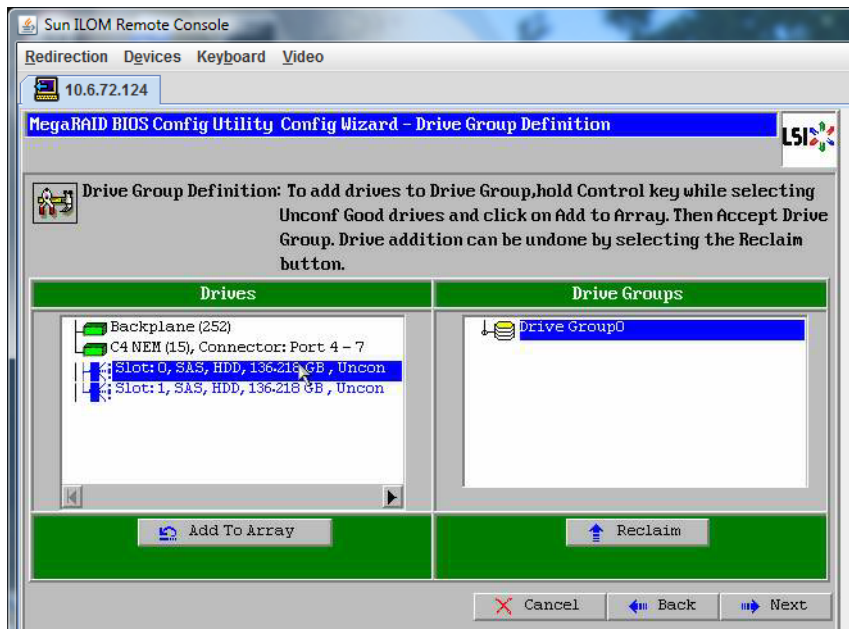


- 12 確認ウィンドウが表示されたら、「Yes」をクリックします。

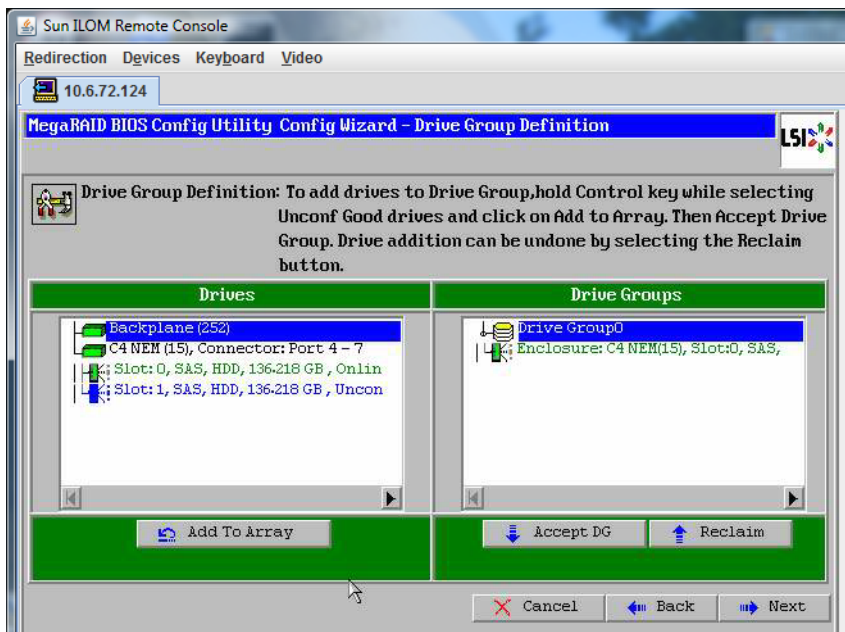


「MegaRAID BIOS Config Utility Config Wizard - Drive Group Definition」画面が表示されます。システム内のドライブおよびドライブグループが表示されます。

- OSをインストールする仮想アレイに含めるドライブを選択します。「Add To Array」をクリックします。



- 14 「Accept DG」をクリックしてドライブグループを作成します。  
Drive Group0が表示されます。

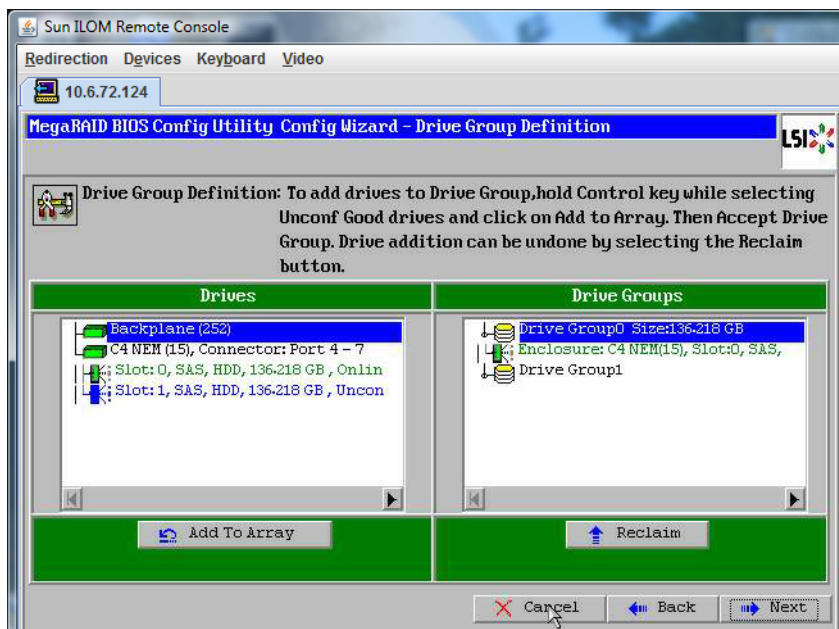


- 15 「Next」をクリックします。

---

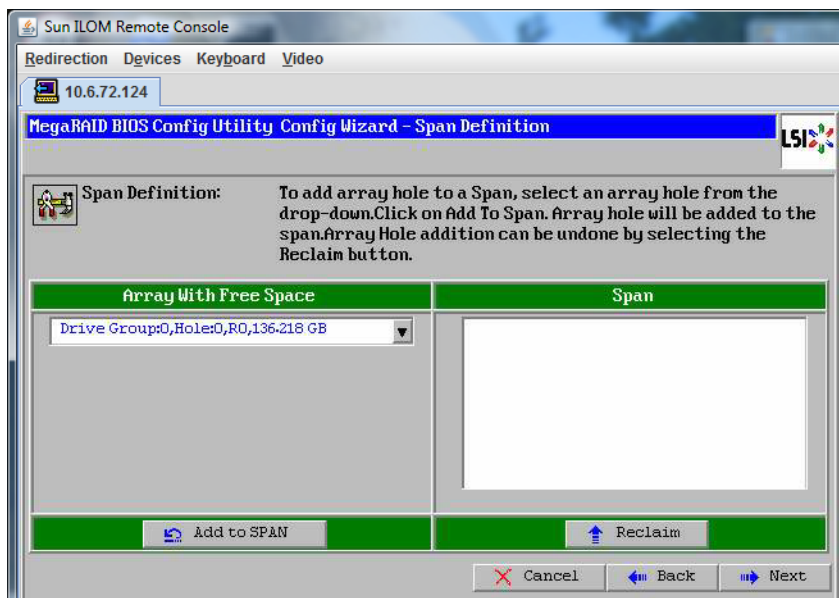
注- ドライブグループの選択は、「Reclaim」ボタンをクリックして取り消すことができます。

---



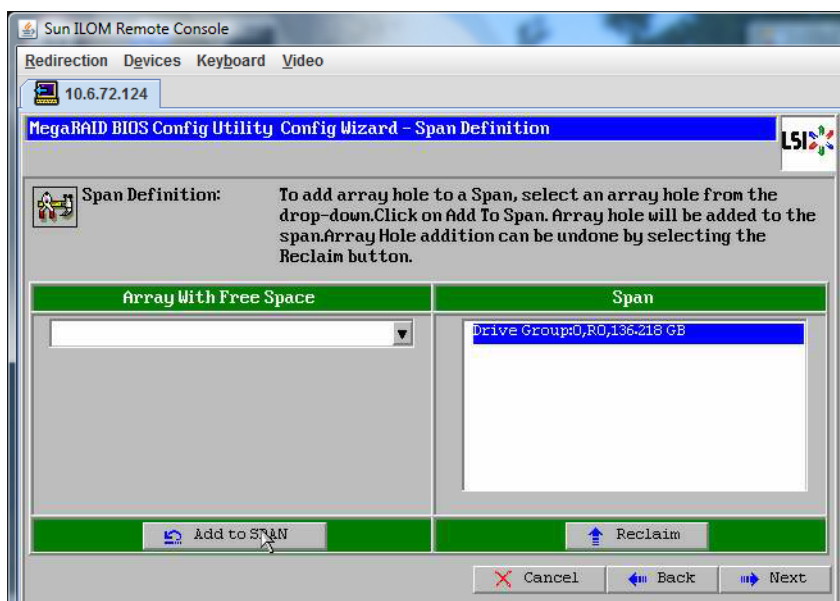
ドライブグループが「Span Definition」ウィンドウに表示されます。

- 16 「Add to SPAN」をクリックします。



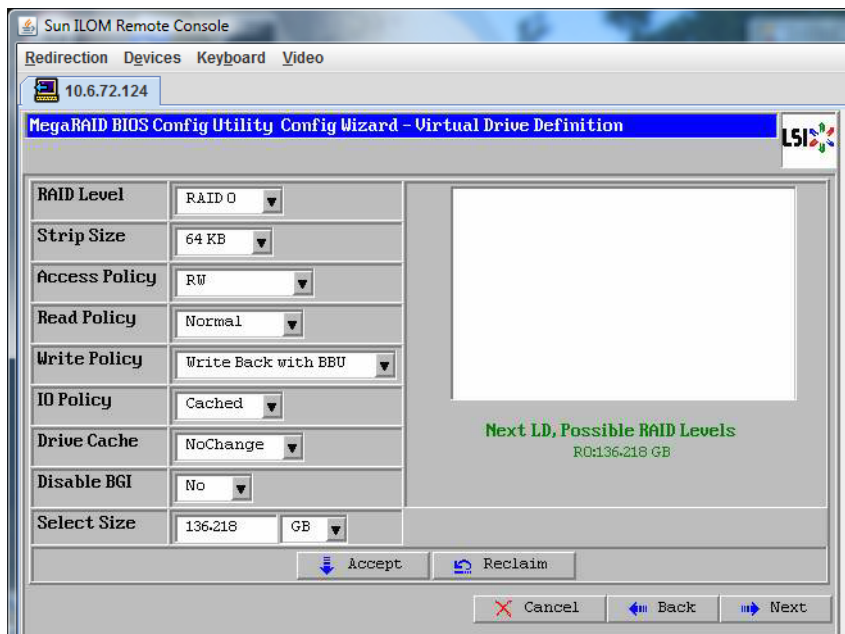
ドライブグループが「Span」に表示されます。

- 17 「Next」をクリックします。



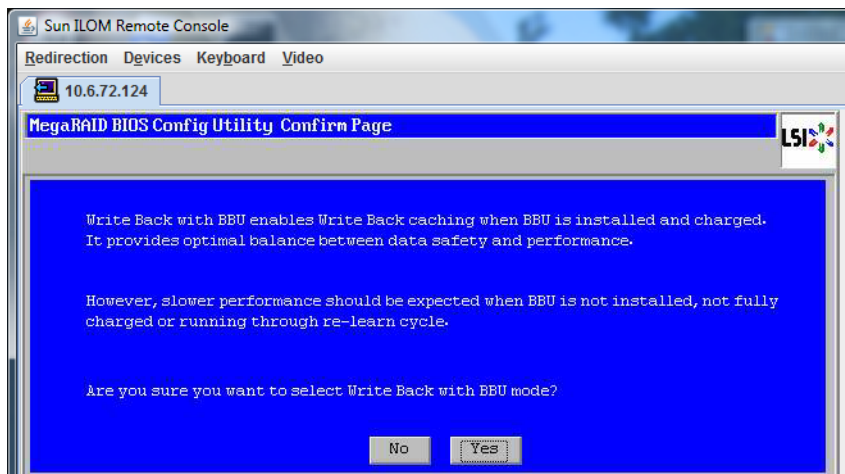
「Virtual Drive Definition」画面が表示されます。

- 18 仮想ドライブの RAID レベルと設定値を設定して、「Accept」をクリックします。  
RAID の設定については、サーバーのディスク管理マニュアルを参照してください。



BBUでのライトバックモードの選択を求めるメッセージが表示されます。

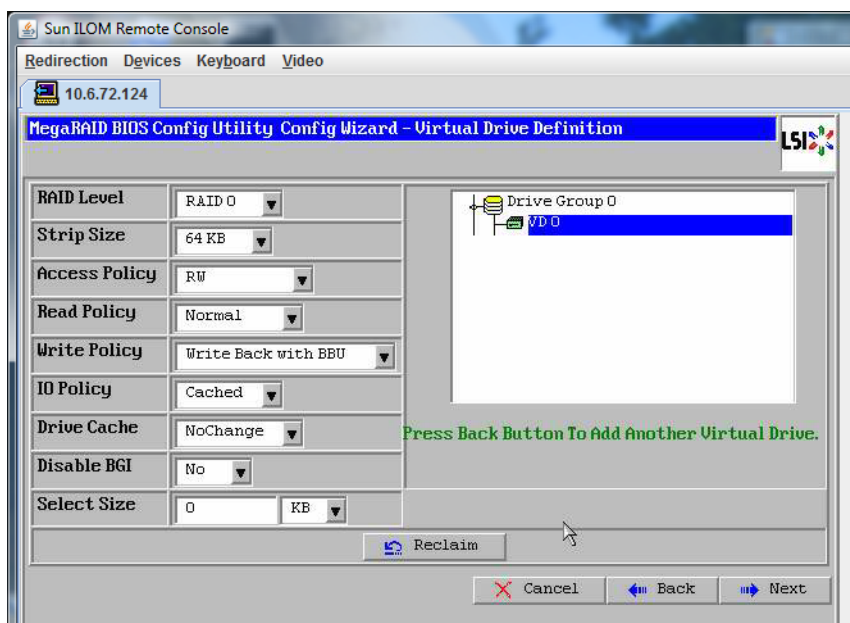
- 19 「Yes」をクリックします。



「Config Wizard— Virtual Drive Definition」ウィンドウが表示されます。

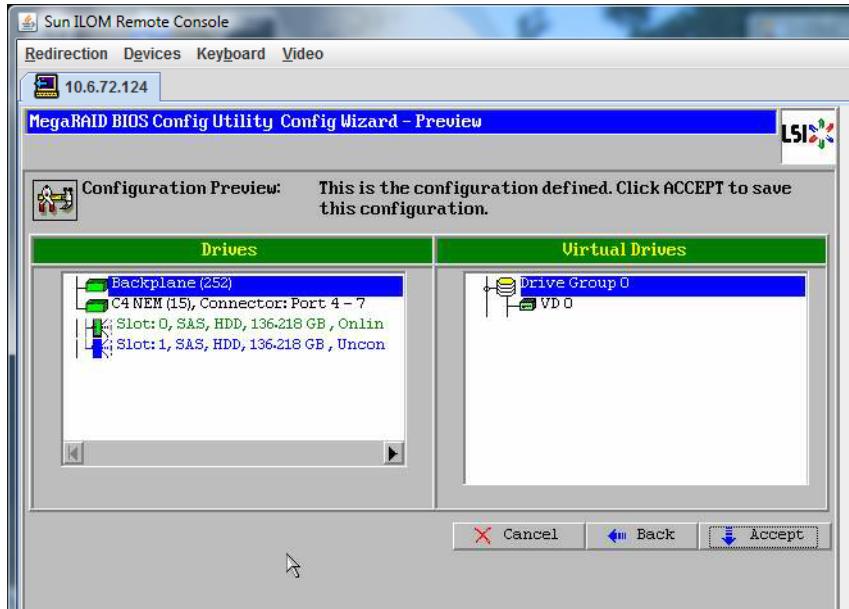


20 「Next」をクリックします。

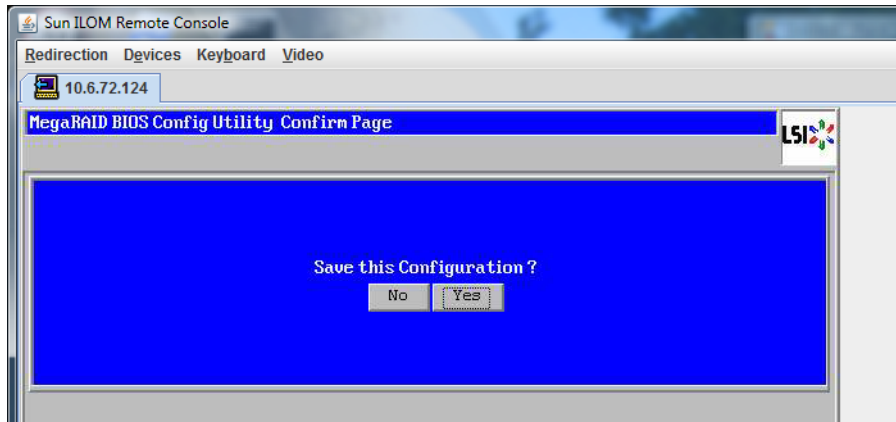


「Preview」画面が表示されます。

- 21 仮想ドライブに **Drive Group 0** が含まれていることを確認します。  
 次の「Preview」画面の例は、「Manual Configuration」オプションを使用した単一の仮想ドライブを示しています。

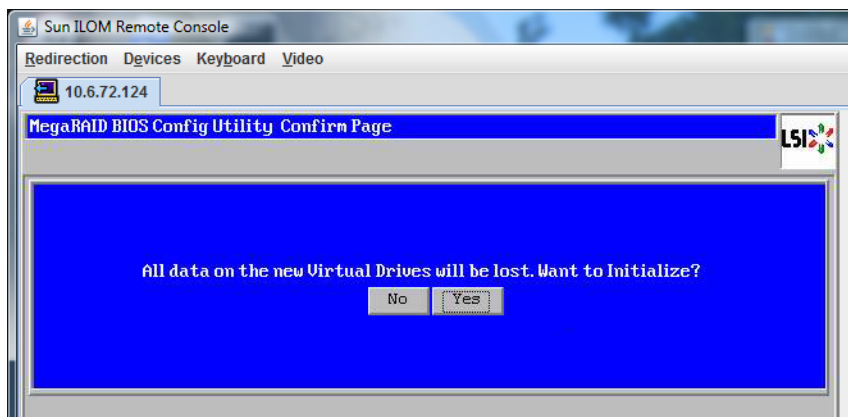


- 22 「Yes」をクリックして構成を保存します。

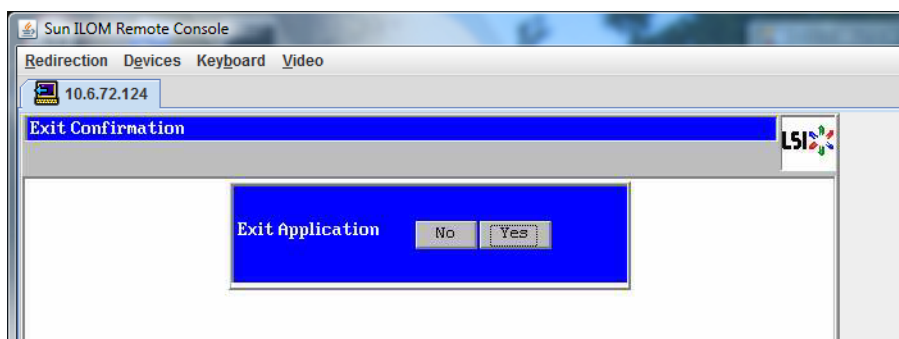


「All data on Virtual Drives will be lost」というメッセージが表示されます。初期化するかどうかを指定します。

- 23 「Yes」をクリックしてドライブを初期化します。



- 24 「Yes」をクリックして終了します。

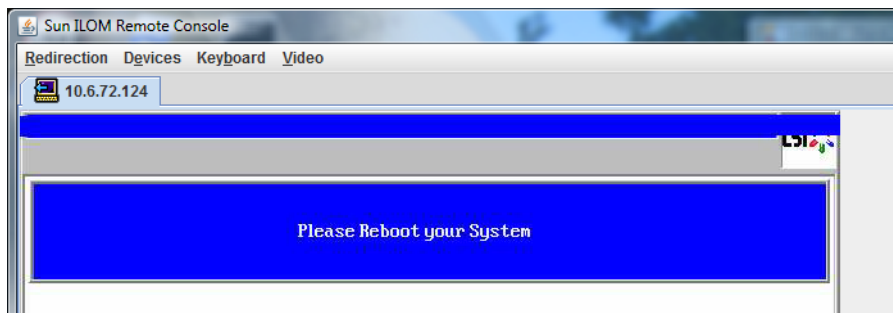


「Please Reboot Your System」というメッセージが表示されます。システムの再起動はまだ行わないでください。

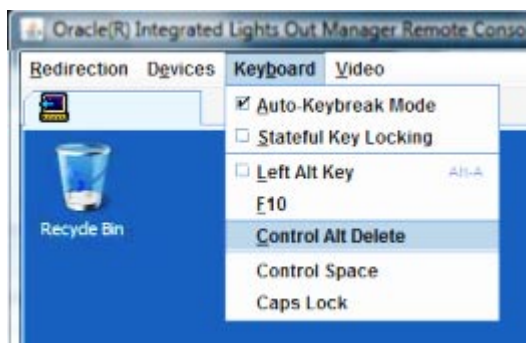
- 25 Alt キーを押しながら B キーを押して、キーボードプルダウンメニューを表示します。



注意 - この手順を実行しない場合は、次の手順で「Control Alt Delete」を選択したときにローカルマシンが再起動されます。



- 26 矢印キーを使用してメニュー内の「Control Alt Delete」を選択し、リモートシステムを再起動します。Enter を押します。

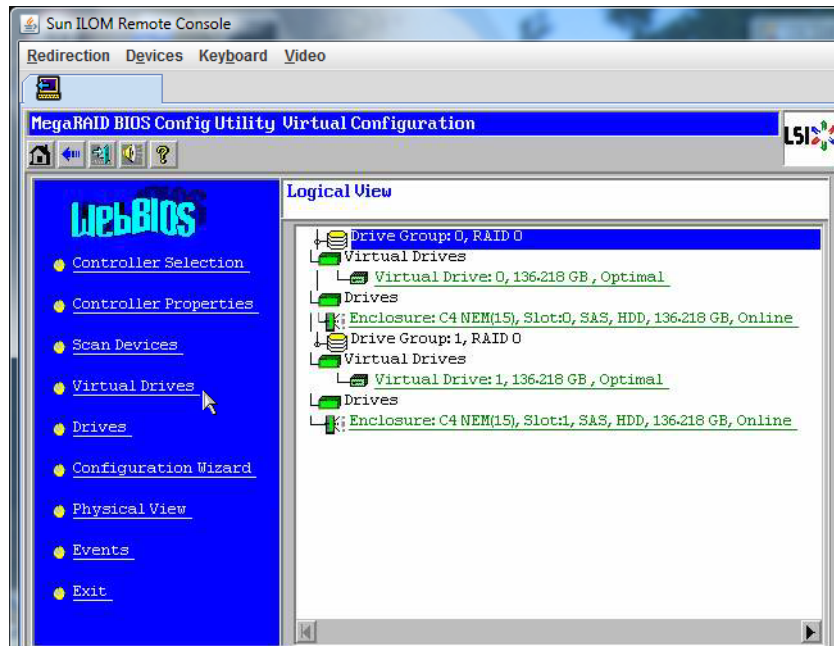


- 27 元の画面に戻り、マウスモードを「Absolute」に設定します。
- 「Remote Control」画面で「KVMS」タブをクリックします。
  - 「Mouse Mode」で「Absolute」を選択します。
  - 「Save」をクリックします。

## ▼ ブートドライブを設定する方法

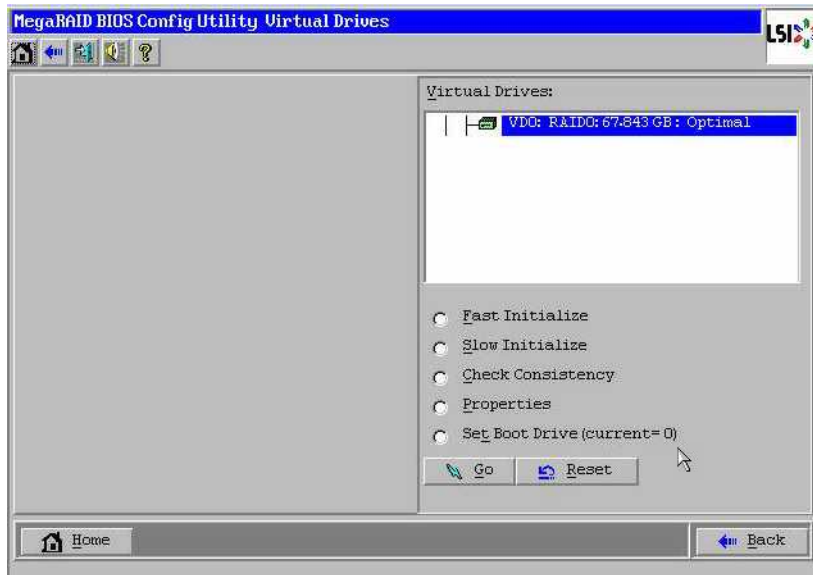
作成した仮想ドライブにオペレーティングシステムをインストールする場合は、ドライブをブートドライブとして設定する必要があります。

- 1 「Configuration Wizard」画面で「Virtual Drives」を選択します。



「MegaRAID BIOS Config Utility Virtual Drives Configuration」画面が表示されます。

- 2 「Set\_Boot Drive (current=none)」がオプションに含まれないことを確認します。  
「Set Boot Drive (current=none)」オプションが表示されている場合は、ブートドライブが設定されていません。



- 3 「Set\_Boot Drive (current=none)」をオンにして、「Go」をクリックします。

# Solaris OS のインストール

---

## Solaris OS をインストールする場合の作業マップ

次の表では、Solaris 10 10/09 または Solaris 11 Express を Sun Fire X4800 M2 サーバーにインストールする場合の作業マップを示します。

タスク	説明	指示書
サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』
『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を確認します。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』
インストール方法を選択します。	インストール方法を選択し、手順を確認します。	32 ページの「インストール方法の選択」
Solaris OS のインストールマニュアルを特定する。	ソフトウェアに添付されている Solaris OS のマニュアルには、インストールについて知っておく必要のある情報の大部分が記載されています。	36 ページの「Solaris 10 ドキュメントの入手方法」または 35 ページの「Solaris 11 Express ドキュメントの入手方法」を参照してください。
各ネットワークインタフェースの論理名と物理名を特定する。	OS のインストール時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名と物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。	36 ページの「Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」

タスク	説明	指示書
必要な OS パッチをインストールする。	最新の OS パッチを確認します。  注 - X4800 M2 と Solaris 10 9/10 OS に対する完全な Solaris FMA (Fault Management Architecture) 機能を使用するには、OS をインストールした後で、パッチ 144489-11 (またはそれ以降) をインストールする必要があります。Solaris 11 Express の場合はこれは必要ありません。	<a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a>

## インストール方法の選択



注意 - Sun Fire X4800 M2 サーバーは、64 ビット版 Solaris のインストールだけをサポートします。32 ビット版のインストールはサポートされません。

Sun Fire X4800 M2 サーバーには、次の方法で Solaris OS をインストールできます。

- 『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』の「プリインストールされている Solaris オペレーティングシステムの設定」の説明に従って、ハードドライブ上にプリインストールされている Solaris 10 10/09 OS イメージから起動します。

Solaris 11 Express の場合はプリインストールされたイメージはありません。

- DVD または CD-ROM メディアから、Solaris のインストールプログラムに表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。Solaris 11 Express は USB デバイスからインストールすることもできます。

Solaris 10 の場合、Solaris 10 OS DVD または CD に収録されている Solaris インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface, GUI) を使用して、または対話式テキストインストーラとして実行できます。Solaris Device Configuration Assistant は、Solaris インストールプログラムに含まれています。

Solaris 11 Express の場合は、LiveCD または LiveUSB メディアの Solaris インストールプログラムを使用します。これらは GUI または対話型ユーザーインターフェースから実行できます。

- PXE (Preboot Execution Environment) 技術を利用して、次の方法により、ネットワーク経由で 1 台または複数台のサーバーにインストールします。

Solaris 10 の場合:

- リモートの DVD イメージまたは CD イメージから、ネットワーク経由で Solaris のインストールプログラムを使用します。



- JumpStart を使用したインストール
- シリアルコンソールを使用したインストール

Solaris 11 Express の場合:

- 自動インストール
- カスタムマニフェストを使用する自動インストール
- シリアルコンソール

---

注 - Solaris OS には、広域ネットワーク (WAN) を経由したブートなど、その他のインストールプログラムが用意されていますが、サーバーでは本書に記載された方法のみがサポートされています。

---

次の表に、Solaris OS のインストールに利用できるインストール方法を示します。

方法	説明	指示書
プリインストールイメージから Solaris 10 を起動します。	設定によっては、Solaris OS のイメージがハードドライブにプリインストールされている場合があります。	『Sun Fire X4800 M2 サーバー設置マニュアル』の「プリインストールされている Solaris オペレーティングシステムの設定」
DVD メディアまたは CD-ROM メディアからインストールします。	DVD または CD-ROM メディアにある Solaris のインストールプログラムを使用して、表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。	x86 インストールの手順に従います。
Solaris 11 Express は、特別な .usb イメージファイルを使用して USB メディアからインストールすることもできます。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Solaris 10 の場合は、Solaris 10 オペレーティングシステムコレクションの『Solaris 10 10/09 Installation Guide: Basic Installations』または『Solaris 10 9/10 Installation Guide: Basic Installations』を参照してください。</li> <li>■ Solaris 11 Express の場合は、Oracle Solaris 11 Express 情報ライブラリの『Getting Started With Oracle Solaris 11 Express』を参照してください。</li> </ul>

---

方法	説明	指示書
<p>PXEを使用してネットワークからインストールします。</p> <p>注意 - PXE サーバーから Solaris 10 OS をインストールする場合は、64 ビットカーネルを使用するように netboot 環境を構成する必要があります。これは、カーネルとモジュールの行に <i>amd64</i> を含むように PXE 起動メニューを変更することで可能です。詳細については、<a href="#">Solaris 10 オペレーティングシステムドキュメントコレクションの『Solaris 10 10/09 Installation Guide: Custom JumpStart and Advanced Installations』</a> または <a href="#">『Solaris 10 9/10 Installation Guide: Custom JumpStart and Advanced Installations』</a> を参照してください。</p>	<p>自動インストールが必要な場合は、PXE を使用してネットワーク経由で Solaris OS をインストールする必要があります。</p> <p>PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、インストールサーバーと DHCP サーバーをセットアップし、ネットワークからブートする各サーバーで BIOS を構成する必要があります。</p> <p>PXE ベースのネットワークインストールでシリアルコンソールを使用して Solaris OS をインストールします。</p>	<p>x86 PXE インストールの手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Solaris 10 の場合は、<a href="#">Solaris 10 オペレーティングシステムドキュメントコレクションの『Solaris 10 (9/10 or 10/09) Installation Guide: Custom JumpStart and Advanced Installations』</a> を参照してください。</li> <li>■ Solaris 11 Express の場合は、<a href="#">Oracle Solaris 11 Express 情報ライブラリの『Oracle Solaris 11 Express Automated Installer Guide』</a> を参照してください。</li> </ul> <p>x86 PXE インストールの手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Solaris 10 の場合、<a href="#">Solaris 10 オペレーティングシステムドキュメントコレクションの『Solaris 10 10/09 Installation Guide: Network-Based Installations』</a> または <a href="#">『Solaris 10 9/10 Installation Guide: Network-Based Installations』</a> を参照してください。</li> <li>■ Solaris 11 Express の場合は、<a href="#">Oracle Solaris 11 Express 情報ライブラリの『Oracle Solaris 11 Express Automated Installer Guide』</a> を参照してください。</li> </ul>

方法	説明	指示書
	ハードドライブを使用せずに、サーバーで Solaris OS をブートします。この方法は、PXE ベースのネットワークインストールで使用します。	<p>x86 PXE インストールの手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Solaris 10 の場合、<a href="#">Solaris 10 オペレーティングシステムドキュメントコレクション</a>の『Solaris 10 10/09 Installation Guide: Network-Based Installations』または『Solaris 10 9/10 Installation Guide: Network-Based Installations』を参照してください。</li> <li>■ Solaris 11 Express の場合は、<a href="#">Oracle Solaris 11 Express 情報ライブラリ</a>の『Oracle Solaris 11 Express Automated Installer Guide』を参照してください。</li> </ul>

関連項目:

- [36 ページの「Solaris 10 ドキュメントの入手方法」](#)
- [35 ページの「Solaris 11 Express ドキュメントの入手方法」](#)
- [36 ページの「Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」](#)

## Solaris 11 Express ドキュメントの入手方法

Solaris 11 Express のドキュメントを入手するには、次のリンクを使用します。指定されている場合は、必ず x86 システムに固有の手順に従ってください。

- Solaris 11 Express 2010.11 の新機能の一覧は、[『Oracle Solaris 11 Express 2010.11 What's New』](#)を参照してください。
- Solaris 11 Express の一般的なドキュメントについては、[Oracle Solaris 11 Express 情報ライブラリ](#)を参照してください。
- Solaris 11 Express メディアの入手方法については、[Oracle Solaris 11 Express 2010.11 ダウンロード](#)を参照してください。
- Solaris 11 Express のインストールについては、[『Getting Started With Oracle Solaris 11 Express』](#)を参照してください。

- PXE インストーラの設定については、『Oracle Solaris 11 Express Automated Installer Guide』を参照してください。

## Solaris 10 ドキュメントの入手方法

Solaris 10 OS のドキュメントは、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/index.html> から入手できます。

指定されている場合は、必ず x86 システムに固有の手順に従ってください。

- Solaris 10 のインストールガイドについては、『Solaris 10 10/09 Release and Installation Collection』を参照してください。
- Solaris 10 の管理ガイドについては、『Solaris 10 System Administrator Collection』を参照してください。
- システムのアップグレードについては、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』を参照してください。
- トラブルシューティングについては、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』の「付録 A」を参照してください。
- パッチおよびそのほかの最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。パッチと説明は<http://support.oracle.com> から入手できます。

Solaris 10 のマニュアルは、Solaris OS ソフトウェアに添付されている Solaris Documentation DVD にも収録されています。

## Solaris OS インストール用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムの設定時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定しなければならない場合があります。ここでは、この情報を取得する方法を説明します。

### ▼ 論理および物理ネットワークインタフェース名の特定方法

論理名および物理名 (MAC アドレス) を含む、MAC アドレスとネットワークインタフェースに関する情報を表示するには、この手順を使用します。

- 1 「Install Type (インストールタイプ)」メニューで、「Option (6) Single User Shell (オプション (6) 単一ユーザーシェル)」を選択して、Enter キーを押します。

---

注-別の方法として、これらのコマンドをコマンドシェルから実行することもできます。

---

OS インスタンスのマウントに関するメッセージが表示されたら、**q** を選択します。OS インスタンスはマウントしません。

メッセージ "Starting Shell" が表示されます。次の図は例を示しています。

```
1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Selected: 6

Single user shell.

Searching for installed OS instances...

Multiple OS instances were found. To check and mount one of them
read-write under /a, select it from the following list. To not mount
any, select 'q'.

 1 /dev/dsk/c2t0d0s0 Solaris 10 6/06 s10x_u2wos_08 X86
 2 /dev/dsk/c2t1d0s0 Solaris 10 6/06 s10u2_08-0N-WOS X86

Please select a device to be mounted (q for none) [?,?,q]: q

Starting shell.
#
```

- 2 コマンドプロンプト(**#**)で次のコマンドを入力して、すべてのネットワークインタフェースを **plumb** します。

```
# ifconfig -a plumb
```

---

注-plumb プロセスには時間がかかることがあります。

---

- 3 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# ifconfig -a
```

Solaris の名前付きインタフェースおよび MAC アドレスの出力が表示されます。たとえば、次のように入力します。

```
# ifconfig -a | more
e1000g0: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 2
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g1: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 3
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:ef
e1000g2: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 4
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a5:d6
e1000g3: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 5
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a5:d7
e1000g4: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 6
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:4e
e1000g5: flags=1000842<BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 1
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:4f
e1000g6: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 7
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 8:0:20:b6:ce:94
e1000g7: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> ntu 1500 index 8
    inet 0.0.0.0 netmask 0
```

この出力例では、次のようになっています。

- 最初の列の `e1000g#` エントリは、Solaris 論理名付きインタフェースです。出力の最初の列は、Solaris がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
- 2 列目 (3 行目) の `ether #:#:#:#:#` エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレス名です。

たとえば、次のように表示されます。

Solaris の名前付きネットワークインタフェース「`e1000g0`」の物理 MAC アドレスは、「`0:14:4f:c:a1:ee`」です。

- 4 この情報をファイルに保存するか、書き留めます。
- 5 最後に、システム設定スクリプトを開始するには、コマンド行に「`sys-unconfig(1M)`」と入力します。  
このコマンドは、システム設定を工場出荷時のデフォルトに復元します。



注意 - `sys-unconfig(1M)` コマンドを実行するとシステムが停止し、工場出荷時の設定が復元されます。このコマンドは、システムを再構成する場合以外は実行しないでください。

たとえば、次のように入力します。

```
# sys-unconfig
```

```
WARNING
```

```
This program will unconfigure your system. It will cause it  
to revert to a "blank" system - it will not have a name or know  
about other systems or networks.
```

```
This program will also halt the system.
```

```
Do you want to continue (y/n) ?
```

システムが再起動され、設定スクリプトが開始されます。

